

まほろば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第85号

2008年8月号

コラム「医師のための診療基本方針」

昨年、「医療の限界」（新潮新書）という本が出版されました。著者は虎ノ門病院泌尿器科部長の小松秀樹氏。2006年に『医療崩壊「立ち去り型サポーター」』とは何か』（朝日新聞社）で病院医療の危機を克明に描いた方です。「医療の限界」では、医療が本来的に持つ不確実性と患者側の過度の期待を対比し、さらに、犯罪捜査が医療事故に対し、いかになじまないかを多くの背景とともに描いています。小松氏はこれらの分析をふまえ、診療の質を高く保ち、かつ円滑に進めるために、優れた「医師の行動規範」を作り上げました。抽象的な記述に終始し、作成する事が目的化している規範の多い中で、医療の諸問題に誠実に対処するための具体的な規定を言んだ75項目を定めています。この「医師のための入院診療基本方針」は、虎ノ門病院のホームページで見ることが出来ますので、是非、御覧いただきたいと思います。

第1項から第6項は（原則）を定めたものです。いくつかを抜き出してみます。

1.（医師の責任）医師の医療上の判断は命令や強制ではなく、自らの知識と良心に基づく。したがって、医師の医療における言葉と行動には常に個的責任を伴う。

2.（医療の質の向上）虎ノ門病院は時代時代の最



良の医療を提供することを自らに課している。とくに、入院診療は病院における医療活動の根幹であり、入院診療の質を高く維持するために普段の努力が求められる。

3.（医療の不確実性）医療はしばしば身体に対する侵襲を伴う。人間の生命の複雑性と有限性、及び、各個人の多様性ゆえに、医療は本質的に不確実である。医療が有害になりうることを、医療にできることには限界があることを常に自覚して謙虚な態度で診療にあたる。

以下、（緊急時の対応）、（コメディカルとの協調）、（記録）、（診療方針の決定と変更）、（説明と同意）、（患者の自己決定権の限界）、（医療事故）、（情報の収集と共有の努力）

等々の項目が並び、とるべき医療行為を細かく規定しています。いずれもプロとしての自己研鑽と自己を律することを求めたストイックな内容のものです。虎ノ門病院は名門病院として、仰ぎ見る存在ではありませんが、その精神は我々も目標にすべきものと思っています。

院長 佐藤 年信

《看護学校新校舎の竣工式》7月23日テープカット

竣工式当日は、朝から小雨模様の天気となり、当初予定していた玄関前での式典を、急遽講堂で行うことになりました。竣工式では、佐藤校長の「現代医療の高度化、多様化が進む中で、看護師育成のニーズも高まっている。新校舎はそのための設備が十分に備わり教育環境が向上した。今後は優れた看護師



を育成し、地域医療に貢献していきたい。」とのあいさつで始まり、その後、関係者らによるテープカットで完成を祝いました。

式典後、内覧会が行われ、須藤教育主事の案内で参加者らが新校舎（3階建て、総床面積約2,139㎡）を見学されました。庶務班長 中野 喜代美



躍動感溢れる美しさ ー第9回よさこい津軽ー

去る6月29日（日）、曇天の蒸し暑い中、「第9回よさこい津軽」が開催されました。参加チームは県外組を含む31チーム。昨年よりも6チーム少ないとはいえ、回を重ねる毎に市民に定着し、演舞を楽しみに集まる見物客は増え、会場の土手町界隈は大変な賑わいでした。

土手町通りの6つに分かれた会場のマップと会場別タイムスケジュール付きパンフレットを手に、目当てのチームの演舞を求めて移動する見物客もあれば、じっくりとひとつの会場で様々なチームを楽しむ見物

客など様々でした。少人数ですべて手作りで参加するチームもあれば、70名を超える人数で一糸乱れぬ演舞を披露するチームもあり。観る側も見せる側も自由にエネルギーを注ぎ、「津軽ひろさき」のパワーを改めて感じました。

「花火」「よさこい」と続き、いよいよ夏本番。津軽には「ねぷた」の季節がやってきます。入院係 工藤 真叔



【栄養サポートチーム（NST）の活動状況報告】NST症例検討会をのぞいてみませんか？

当院のNSTは、4月より毎月第1週の火曜日16時から、医局カンファレンスルームで症例検討会を開催しています。コンセプトは、“時間内”で、密度が高く、より日常業務に反映すべく！です。毎月2ヶ病棟からの症例発表に対して、活発な質疑応答が展開されており。ちなみに、



- ・ 4月は「JSPEN 京都学会探訪記」ということで、「一戸葉削師、野呂主任栄養士」
- ・ 5月は、「予定入院期間を延長した原因追及」「東2病棟NST」。「NSTシステム稼働と今後の課題」「栄養管理室」。
- ・ 6月は、「NST 依頼患者の外来フォロー継続について」「東3病

棟NST」。「NST 介入による褥瘡部位を画像評価した1症例」「西2病棟NST」。

・ 7月は、「難治性褥瘡患者の比較検討」「西3病棟」。「治療拒否患者との関わり」「西1病棟」でした。

そして、今月8月30日（土）に、地元弘前で開催される青森県静脈経腸栄養研究会に、当弘前NST看護チームが、症例報告を2題発表します！さらに、今後の活動予定として、ちょっと気の早い話ですが、12月2日（火）18時から『院内NST 症例発表会』を大々的に開催いたしますので楽しみに！

また、定期的にNST 課外研修（意見交換会）も開催しておりますので、是非！一度参加してみませんか？ 栄養士 沢谷 里江

【ふるさと紹介】 ◆八戸市◆

私が生まれ育った八戸市は、青森県の南部地方に位置し、ご存知のとおり冬の積雪量が少ないという特徴があります。雪が少ないにもかかわらず、寒さが厳しいことからスケートが盛んな地域です。弘前市内の小中学校でスキー教室があるように、八戸地域の学校ではスケート教室やスケート大会があります。私も小学校から高校卒業まで毎年のように、学校のスケート大会に参加していました。そして、地域にはアイスホッケークラブやフィギュアスケートクラブがあり、将来のオリンピック選手を目指して練習している子供もいます。

また太平洋に面しており、海岸線には魚港や工場が多数見られます。夜の海岸線は、黒い不気味な海と工場や漁船団の明かりで近末

来的な光景にも見えます。でも、時には怪しい人影に囲まれることもあるので、細心の注意が必要です。

八戸は弘前に比べて観光地がないために、県内外からの観光客が少ない街です。最近では、新幹線が開通してから夏祭りである三社大祭をPRしたり、せんべい汁やイチゴ煮をお土産品として販売したりと、観光客の誘致に力を入れているようです。暇のある方は、一度は行ってみたいかもしれません。



消化器科医師 菊池 英純

病院訪問「ブロック事務所統括部長」「北海道厚生局長」



6月25日（水）北海道東北ブロック事務所の宇口統括部長が来院されました。幹部職員とこれからの弘前病院運営について活発に意見を交わした後、院内各職場を巡視され、次の訪問先である青森病院に向かわれました。

また、翌26日（木）には、北海道厚生局の清水局長が来院されました。局長は平成16年4月、国立病院機構に移行された際に本部の企画経営部長の要職にあった方で、今回は松丘保養園での用務に先立ち、当院に立ち寄られ、幹部職員との懇談に引き続き、院内各職場を巡視されました。管理課長 大類 靖



【今月の川柳】

★【川柳募集】あなたの川柳をお待ちしています。

泣いてた子 診察終わって ケロっとし (T. K)

励ましの 言葉におもわず 涙で (仁)

掲載した川柳は、広報誌編集委員会を選出したものです。

お知らせ

◆ 苦情・相談窓口

（メディカルソーシャルワーカー）や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院** 〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
Hirosaki National Hospital TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
 責任者 臨床研究部長 泉井 亮 ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>

市民講座『こどもの事故』－小児科医師 佐藤 エー

6月25日の市民講座では、「こどもの事故」をテーマにお話させていただきました。比較的身近な話題だったせいか、多くの方に集まっていたさき心から感謝いたします。

こどもの死亡原因の一位は、1960年以降一貫して「不慮の事故」です。こどもの死亡事故は、親御さんはもちろんのこと、周囲の人たちにまで強い悲しみと後悔の念をもたらします。病気ならいっしょに闘えますが、事故はすべての思いを一瞬の間に閉ざし、家族という営みを全て停止させることさえあります。医療者側にとっても、やり切れない思いだけが残ります。

こどもの事故の多くが、防ぎ得た事故です。あるいは予測し得た事故とも表現できます。しかし、こどもの行動は大人にとって予測のつかないことも多々あり、結果的にこどもが起こした事故の衝撃が大人の目を覚まさせ、次の事故を防ぐきっかけになるという一種のジレンマが歴史的に繰り返されてきました。いつまでもこのジレンマが解消されないのでしょうか。少なくとも10数年前と今の時代とが異なる点は、情報獲得の容易さではないでしょうか。テレビやインターネットで得られる情報を全て鵜呑みにすることは危

険ですが、書籍や雑誌を含めて広く共用されている情報は誤りが少なく大いに参考になります。

若いお父さん、お母さん、PCは持っていないくても、携帯電話でインターネットを利用して

- ①家庭内で危険な場所、生活用品がないか
②こどもが事故を起こしたら、まず自分たちが何をすればいいのか

を日常的に考え、心の準備をしていきましょうね。



小児科医師 佐藤 エー

消防訓練－7月4日－ 災害は忘れた頃に・・・？

「災害は忘れた頃にやってくる」しかし、昔から言い伝えられているそのことわざが最近どうも疑わしくなってきた。

「災害は、忘れる間もなくやってくる」・・・タベ（7月24日未明）岩手県沿岸北部地震があり弘前では被害こそなかったが、けっこう強く揺れた。つい最近、岩手宮城内陸地震があり大きな爪痕を残した。その前の新潟、あるいは中国四川省。まだ記憶に新しいうちに次々と襲ってくる。実はここ弘前の近くにも「津軽山地西縁断層帯」というのが地下深く眠っていて、近い将来どうのこうのという事は無いらしいのだが、それを100%保証できるものはない。



7月4日、東3病棟非常口付近を出火想定とし、消防訓練を行った。「地震大国日本」と言われて久しいが、こうも地震が多いとそれによる火災が怖い。万が一火災が発生したときに、患者様の安全を確保するためには、日頃の訓練がものを言うだろう。

「生死の間に揺れる振り子を〔生〕側に振らせるのは、運と冷静さと訓練である」・・・冒険家の言葉を思い出した。



庶務係長 高橋 卓雄

－がん化学療法認定看護師－

今年6月にがん化学療法認定看護師の資格を取得しました。認定看護師制度は、1997年に日本看護協会が制定したもので、現在19の特定看護分野があります。

認定看護師は、特定の分野において看護の実践、指導、相談という3つの役割を果たします。患者様やご家族に対して、熟練した看護技術を用いて、水準の高い看護実践を行うとともに、看護職に対する指導や相談を積極的に行い、実践活動を通じて医療の質の向上に貢献することを目指しています。

これまで入院化学療法の経験しかありませんでした



が、6月から外来に配属になり、診断確定、治療方針の決定が外来ベースで行われている現状で、告知される患者様、ご家族の意思決定を支え、外来での化学療法を継続し、適切なサポートができるように日々努力しているところです。

がん化学療法看護は、化学療法を受ける患者様とご家族を支え、安全を守っていくことを使命としています。

今後は、化学療法導入時の不安緩和への介入、副作用症状のマネジメントなど患者様を含め、看護師の方からのご要望にお答えできるように活動を広めていきたいと考えております。

副看護師長 太田 幸子

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表（2008 年8月1 日現在）

診療科		月	火	水	木	金
総合診療外来		－	－	大 串 和 久	－	－
内 科		人 見 博 康	人 見 博 康	人 見 博 康	人 見 博 康	人 見 博 康
呼 吸 器 科		山 本 勝 丸	中 川 英 之	中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之
消 化 器 科		菊 池 英 純	佐 藤 年 信	藤 田 均 元	菊 池 英 純／藤 田 均 元	佐 藤 年 信
小 児 科		杉 本 和 彦	野 村 由 美 子	杉 本 和 彦	野 村 由 美 子	野 村 由 美 子
外 科		田 澤 俊 幸	高 橋 克 勝	横 山 昌 樹	横 山 昌 樹	三 上 勝 也
整 形 外 科	午前	柿 崎 寛	柿 崎 寛	秋 元 博 之	秋 元 博 之	柿 崎 寛
	午後	近 江 洋 嗣	近 江 洋 嗣	近 江 洋 嗣	近 江 洋 嗣	近 江 洋 嗣
脳神経外科		－	－	－	－	－
皮 膚 科	午前	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行
	午後	● 予 約	● 手 術	● 予 約	● 手 術	● 予 約
泌 尿 器 科		大 和 隆	大 和 隆	大 和 隆	大 和 隆	大 和 隆
産 婦 人 科		眞 鍋 麻 里	片 桐 清 一	眞 鍋 麻 里	● 妊 婦 健 診（一般外来休診）	片 桐 清 一
眼 科		時 苗 順 義	時 苗 順 義	時 苗 順 義	時 苗 順 義	時 苗 順 義
耳鼻咽喉科		黒 田 令 子	黒 田 令 子	● 手 術（一般外来休診）	黒 田 令 子	黒 田 令 子
放 射 線 科	調 理	佐 々 木 幸 雄	佐 々 木 幸 雄	佐 々 木 幸 雄	佐 々 木 幸 雄	佐 々 木 幸 雄
	治療	－	阿 部 由 直（午後）	－	－	－
麻 酔 科		● 手 術	● 手 術	● 手 術	工 藤 明	● 手 術
女性専用外来			杉 本 菜 穂 子（※予約制／第1・第3火曜日午後診療）			
セカンドオピニオン・がん特別相談		－	－	－	今 充	－

毎週木曜日、弘前大学名誉教授 今 先生による「がん相談室」を設置いたしました。セカンドオピニオンと「がん」についてのご相談をお受けいたしております。

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

【シリーズ】臨床検査のABC② 「抗体」

今回は抗体の検査について説明します。

抗体は免疫グロブリンと呼ばれ、5つのクラスに分けられます。それらは、IgM、IgG、IgA、IgE、IgDと示されそれぞれの役割をします。この中で、IgEは主にアレルギーに関与し、IgDについてはまだ詳しいことは解っていません。IgAは局所免疫に関与し唾液、涙液、鼻汁、乳汁に含まれます。IgM・Gは共にこれから説明していく検査などに利用される免疫グロブリンの一種です。

現在、検査科では、検査汎用機により IgG・A・



Mの測定が可能です。これら免疫グロブリンは体内ではある一定のバランスを保っておりその増減によりいろいろな重要な情報が得られます。

IgG・・・870～1700mg/dL
IgA・・・110～410mg/dL
IgM・・・男性33～190mg/dL
女性46～260mg/dL

が正常範囲であり濃度の低下は進行性悪性腫瘍、リンパ性白血病、多発性骨髄腫、マクログロブリン血症、初期の免疫不全状態など、また、逆に上昇は肝疾患、急性・慢性の感染症、自己免疫疾患のような多クローン性又は少クローン性免疫グロブリン増殖によって生じます。

病理主任 渡邊 拓之

－「七夕の想い」－

7月といえば、七夕を思い浮かべる人が多いと思います。七夕といえば、笹に折り紙などで作った飾りや、願い事を書いた短冊を飾り、願いが叶うようにと祈る夏の風習です。

当院でも、一人ひとりの願いが叶うようにと外来ホールや病棟に七夕飾りを設置しました。

外来ホールでは、風の子保育園の子ども達を書いた短冊や飾りのほか、患者様を書いた短冊を飾りました。短冊には、「早く病気が良くなりますように」「家族が健康で暮らせますように」というような内容から、「お



もちゃがほしい」というような子ども達の願いまで多くの願い事が書いてありました。

七夕は、多くの人々が色々な想いを抱いているということを実感できる日でもあり、初夏の季節感を味わえる日だと感じます。

七夕飾りは、色々な想いや季節感を引き立たせるような気がします。

庶務係 関向 隆裕